

静岡女子短大 ○塚本桃代 磯部洋子

目的 現在、数多くの原型作図法があるが、作図が簡単で、しかもできるだけ補正の少ない、身体各部への適合度の高い *pattern* を求める目的で本研究に着手した。着用実験を行なった結果、若い婦人の胴部原型について一つの試案を得たので報告する。

方法 (1) 任意に抽出した本学々生18名を被験者として、身体計測と側面視シルエットの写真撮影を行なうことにより、体型把握を行なった。(2) 実測値を使って同一方式で作図を行ない *Toile* 化した。(3) 着用と補正は、採寸時の *Brassiere* 着用の上に各自の *Toile* をつけて必要な補正を行ない、(4) 元型に対する補正值を計測記録した。補正の条件は一律に (● 袖ぐりのゆとり量 5cm, ● 肩線の位置は肩縫目線上) とした。

結果 (1) 被験者はほぼ標準的な体型の持主であった。(2) 主な補正箇所は袖底と下げたものの67%, 肩線の位置と傾斜角度の変更94%, 衿ぐりの深さ(後・前)の変更94~88%であった。(3) これらの諸点を考慮して設定を試みた若い婦人の胴部原型は次の通りである。

① 身体計測部位—胸囲・胴囲・背丈・背肩幅・背幅・胸幅・頸付根囲・腕付根囲・乳下り・乳距離の10項目。② 基礎線のうち—*Neck Line* は頸椎真を通る線とした。*Bust Line* は *Neck Line* より胸囲/4 下がったところとした。③ *Neck point* は後も前も *Neck Line* より上側に置いた。④ 肩線の位置—肩縫目線上に置いた。⑤ 肩線の傾斜角度—22度の定寸法とした。⑥ 後衿ぐりの深さ—定寸法 2.5cm とした。⑦ 袖ぐり線の修正を最小限に止めることができる。

(4) この試案を任意抽出した別の個体約50例に試みた結果、著るしいイカリ肩2例を除いて殆ど補正の必要がなかったことをつけ加える。